

たぐろ

TAKUSUI
No. 641

3

March, 2010

発行 財兵庫県水産振興基金

兵庫の漁業人のための情報誌



「道の駅みつ」竣工式典 2月20日 (たつの市提供)

NEWS

「道の駅」みつオープン

第13回山田記念賞表彰式・祝賀会開催

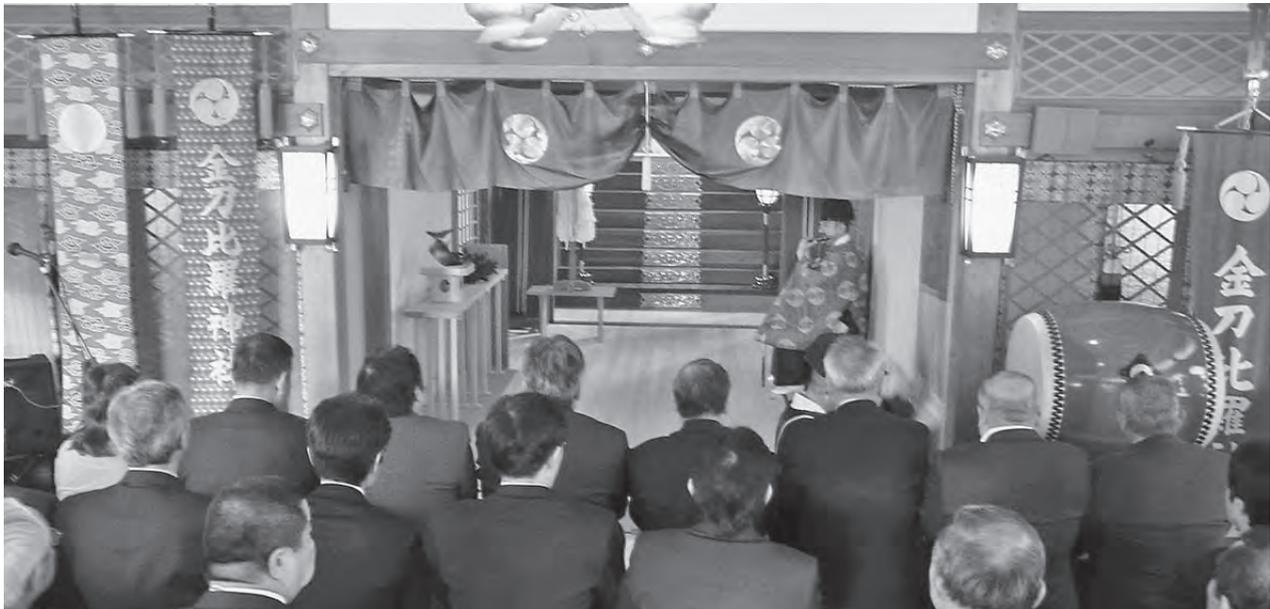
Report

平成21年度兵庫県漁業協同組合長懇談会並びに豊漁祈願開催

2009年度兵庫JCC協同組合研究・交流会開催

平成21年度

兵庫県漁業協同組合長懇談会並びに豊漁祈願 開催



金刀比羅神社での豊漁祈願

平成22年2月19日(金)、JF但馬本所において、平成21年度(第24回)組合長懇談会が、県下JFの組合長をはじめ、県・漁協系統団体役員等約60名が出席し、開催されました。

まず、主催者を代表して、JF兵庫漁連の山田隆義会長より、「水揚げの減少に加えて魚価の低迷という厳しい状況のもと、国においては農業と同様に漁業においても戸別補償制度の導入が検討されているが、流通対策や豊かな海の再生方策の実現を望みたい。また、本日の講演を是非とも今後の漁協運営等に活かしていただきたい」との挨拶があり、引き続き、兵庫県農政環境部農林水産局水産課・山村雅雄課長より来賓を代表して挨拶をいただいた後、講義に移りました。

本年度は、「漁業・漁村の危機下の水産物流通と

JFの役割」と題して、東京海洋大学海洋政策文化学科の濱田武士准教授を講師に招き、ご講演いただきました。

講演の中で、濱田准教授は、魚価の低迷は決して漁業者の努力不足が原因ではなく、消費者の魚離れが進んでいる背景には、大型量販店の郊外への出店による『魚を食べさせない街づくり』が挙げられる。つまり、これら大型量販店では売場の低コスト化、素人化が進むことによって、ますます地元で水揚げされる魚が敬遠されている状況にある。このような形で量販店が売場面積を拡大させている一方で、昔ながらの鮮魚店は閉店を余儀なくされ、現状では激減状態にあると指摘されました。さらには、魚価対策は、漁業者の努力だけでは解決できない、構造的な問題であるものの、魚をラウンド(尾頭付き)で売ることが出来るための努力など、漁業者としてもやるべきことには積極的に取り組んでいくべきとの提案もなされました。講演中、出席者達は講師の話に熱心に耳を傾け、テーマへの関心の高さが伺われました。

懇談会の翌日には、香美町・金刀比羅神社において、平成21年度(第35回)豊漁祈願が厳かに挙行され、参加者一同が豊かな海の創出と漁業操業の安全を祈願しました。



組合長懇談会の様子

“エメックス国際フォーラム” 神戸で開催 里海と生物多様性 –アジアでの活動、日本での活動–

(財)国際エメックスセンターは、10月に生物多様性国際会議(COP10)が名古屋市で開催されることに先立ち、2月10日神戸市内にて「里海と生物多様性」と題して日本及びアジアでの里海の動向と取組を紹介するフォーラムを開催しました。(COP10と生物多様性については下記参照)

主催者挨拶の後、日本での動きについて、環境省閉鎖性海域対策室の山田拓也主査が里海創生支援事業など政策面の報告を、広島大学の松田治名誉教授が主としてエメックス会議における里海概念の普及状況を報告、その後、具体的な活動として、愛知県三河湾の藤前干潟と大分県の中津干潟での取り組みが各々NPO法人などから報告されました。

休憩を挟み、後半はタイでのエビ養殖がマングローブとの共生という生態系に基づいて行われている先駆的な取り組みをタイの水産養殖関係者が報告、また、アジア全般に亘る生物多様性に関する倫理観や慣行などについて、日本を拠点に活動されている国連大学高等研究所のあん・まくどなるど氏が日本での活動内容を交え報告されました。

出席者は、里海活動関係者を始め、漁業関係では大輪田塾生と修了生、漁協系統団体からの8名に大学関係者、一般の方など80名を超える広汎な分野から参加しており、各々の発表の後でその活



講演は同時通訳で進行



あん・まくどなるど氏の講演

動内容などについて活発な質疑応答がありました。

(財)国際エメックスセンターの嵐一夫専務理事は、「この国際フォーラムが生物多様性の問題に1人1人がどのように関わるのかを考えるきっかけになることを期待している」と締めくくりました。

生物多様性とは

地球上には未知の生物も含めると約3,000万種の生物が暮らしていると言われ、こうした多種多様な生き物と、それらがつながってバランスが保たれている生態系、さらに生物が過去から未来へと伝える遺伝子の個性までを含めた生命の豊かさをいう。

COP10

生物多様性条約第10回締約国会議

日時 2010年10月18日(月)～29日(金)

場所 名古屋国際会議場(名古屋市熱田区)

生物多様性条約

ラムサール条約やワシントン条約などの特定の地域、種の保全の取組だけでは生物多様性の保全を図ることができないとの認識から1992年リオデジャネイロサミットにおいて署名、翌93年12月に発効、09年12月現在193の国と地域が締結。日本は1993年5月に締結。

各地の取り組み事例を紹介

JF全漁連主催資源回復制度普及啓発講習会開催

瀬戸内・山陰ブロックは神戸会場で

四囲を海に囲まれた我が国は、南から列島を北上する黒潮と北から南下する親潮がもたらす豊富な水産資源に恵まれ、世界第1の魚食文化圏を形成してきましたが、近年、固有の食文化は崩壊しつつあり、また、資源は有限であるとの意識改革が顕著になってきました。漁業を取り巻く環境も大きく変わってきています。地球温暖化等による生物生態系の変化や水産資源の減少、食糧安否や健康への関心が高まるなか世界的に水産物需要の増大、規制緩和政策等がもたらす国内消費市場の変化等々その要因は様々です。しかし、漁業者は厳しい漁業環境にもめげず豊かな海洋性蛋白資源を国民生活に安定供給することを誇りに、日々、海で生業しています。資源は有限という認識も高く、特に地先・地場で生業してきた漁業者は伝統的に資源の自主管理思想が培われてきました。本県でも操業隻数や漁場の制限、体長制限など自主規制を地域的に実践している事例も多数あります。

国は平成14年度から水産基本計画に基づく資源回復計画の策定を進めており、本県も自主活動とは別に瀬戸内海で広域性のサワラやカタク

チイワシなど、また日本海でアカガレイやズワイガニなどの資源回復計画や資源管理型漁業の推進方策について情報交換会に参画してきたところです。

これの一層の普及を図るため、JF全漁連が2月4日神戸市内で平成21年度瀬戸内・山陰ブロック「資源回復制度普及啓発講習会」を開催しました。会場には府県市行政担当者や漁連、漁協の関係者等約100人が参加し、資源回復計画の取り組みなど制度の重要性が再確認されました。

講習会は、水産庁から次年度関連予算と全国の資源回復計画の概要説明、続いて漁連・業種別団体、水研、大学等から、定置網漁業の資源回復計画、2枚貝の資源回復、日本海ベニズワイガニ漁業に係る加工業者・漁業者の取り組みなど実践活動事例が紹介されました。また、大日本水産会からマリン・エコラベル・ジャパンの紹介、最後に水産庁加工流通課から資源管理型漁業の推進の一助にと水産物産地販売力強化事業の紹介がありました。



関心の高さを物語る約100名の参加者

2009年度 兵庫JCC協同組合研究・交流会開催

兵庫県協同組合連絡協議会

JA・JF・森林組合・生協で構成する兵庫県協同組合連絡協議会は、本年度の兵庫JCC協同組合研究・交流会を2月16日(火)、三木市の生活協同組合コープこうべ協同学苑にて開催し、農業、林業、漁業の生産者と消費者であるコープこうべ組合員計160名が参加しました。



160名が参加した研究会の様様

テーマは、昨年に引き続き、「地産地消で私たちのくらしを見直そう」となりました。

開会にあたり、JA兵庫中央会の三木久和専務理事が、2012年の国際協同組合年を記念する行事が、継続的に協同組合活動を実施していることが評価されて神戸で開催される見込みである旨挨拶され、基調講演は、兵庫大学の池本廣希教授が「あらためて今、なぜ、地産地消なのか」～地産地消のもう1つの意義～と題して、戦後の学校給食での輸入農産物増大や高度成長経済での工業化が第1次産業従事者の高齢化や耕作放棄地を増加させ、これが食料再生機能と自給率の低下に拍車をかけている。今後の商工業と共生する協同組合活動での地産地消推進がこれらの解決につながるのではないかと講演されました。

続いて行われたパネルディスカッションでは、漁業者を代表してJF坊勢の岡田満史生参事が妻鹿でのとれとれ直売所での活動や学校給食への地産魚採用の働きかけについて発表しました。

最後に、昼食・交流会では、全て県産の食材を使用した「地産地消弁当」を囲み、生産者と消費者が懇

談しました。JF兵庫漁連からは、タコめしとチリメンの佃煮入りのノリ巻きおむすびと渡り蟹の漁師汁が提供されました。この交流会の中で参加者の兵庫県漁協女性部連合会の森武美会長が福良の3年トラフグを紹介し、JF明石浦の戒本裕明組合長が最近の漁獲量減少について「きれいに見える海は必ずしも魚が生息し易い環境ではない」と海水中の栄養の重要性について発言され、JF兵庫漁連山口徹夫専務理事の閉会の挨拶をもって終了しました。

生産者と消費者が直接交流することにより、お互いの距離を縮め、安心と信頼が醸成されるこのような機会を大切にしていきたいものです。



交流会で意見表明するJF明石浦戒本組合長

“命を守る運動”

播磨地区で「海上安全講習会」を次々に開催!

JF坊勢では「ミズクラゲ対策学習会」も同時開催

兵庫県下では、漁船の転覆・火災や転落事故などが、毎年のように発生しています。そこで事故の未然防止を図ると、あらためて海上作業での安全意識の高揚をめざし、JF兵庫漁連をはじめ系統5団体と海上保安本部、運輸監理部など関係機関が協力しながら、漁業者やプレジャーボート所有者を対象とする「海上安全講習会」を地区毎に開催しています。

2月27日(土)にはJF坊勢において、神戸運輸監理部・筒井宣利課長を講師として「事故事例と防止対策」「ライフジャケット着用に関する法令について」と題する講演をいただき、漁業者にとっては身近で切実な問題だけに、参加した組合員250名は真剣に耳を傾け、活発な質疑応答が行われました。

また、講演後、神戸大学と救命胴衣メーカーが協力して開発した新型ライフジャケットの試着会が催され、多数の組合員が約30種類のライフジャケットを試着して、着やすさ・作業性などについて感想を述べるなど、品質や機能性改善につながる貴重な意見が寄せられました。

このような“命を守る運動”「海上安全講習会」が本年1月から、各地で開催されています。最近の動きとして、2月10日(水)には「高砂青年の家」において高砂地区4JF役員など70名が参加して、13日(土)にはJF岩見において



ライフジャケット試着会 (JF坊勢)

組合員・女性部員30名を対象に、また、28日(日)にはJF姫路市白浜支所で組合員など27名が参加しての講習会が開催され、いずれも好評を博しました。

ライフジャケット着用は平成20年4月から義務づけられています。「着よう、着せよう、ひと声かけて」を合い言葉に、着用率100%をめざしましょう。

なお、JF坊勢では、クラゲによる被害が絶えないことから、ミズクラゲ(いわゆる四ツ目)対策を考えるため、安全講習会の機会をとらえて学習会も同時に開催し、広島大学大学院の上真一教授から「豊かな海に忍び寄りクラゲの脅威」と題する講演をしていただき、



クラゲの生態に聴き入る組合員 (JF坊勢)

魚類、ことに稚魚類を大量捕食するミズクラゲは、浮き桟橋や人工護岸が増え、温暖化が進むことにより、ますます増加する傾向にあり、夏場にクラゲが成熟する前の段階で一斉に大量駆除(細断処理)してやれば、かなりの増殖抑制効果が期待できるようです。

このため、JF坊勢では早急にクラゲカッターを備えた試験網を製作し、駆除試験を実施することにしており、その成果が期待されています。

「安全講習会開催」のご相談は
JF兵庫漁連・指導部まで
TEL078-940-8013

安全講習の模様



2/10 高砂地区4JF



2/13 JF岩見



2/28 JF姫路市白浜支所

播州室津に「道の駅みつ」オープン

兵庫県とたつの市が平成20年度より建設を進めていた「道の駅みつ」が、たつの市御津町室津の国道250号線沿いの瀬戸内海の自然と海がみえる風光明媚な場所に、2月21日(日)オープンしました。

施設は、1階に「展望レストラン」、「特産品直売所」、「情報コーナー」があり、地元で水揚げされた“前どれ”の漁師料理が味わえ、地産の魚や生鮮野菜、干物などの加工品の購入が出来ます。

また地下1階には「体験学習室」が設けられ、地産の旬の農水産物を使った料理教室など、グループ活動や研修の場としての利用が可能で、3月には「イカナゴくぎ煮づくり体験」「革細工体験教室」が開催されます。

その他、スロープで砂浜まで降りることが出来るので、体験地曳き網漁なども計画されるようです。

オープンに先立つ20日の竣工式典では、漁船パレードも行われ、住民や小学生など約550人が地曳き網漁を体験した他、オープン当日は国道が渋滞するほどの大勢の来客があり、用意した地産の魚や野菜が早々に売り切れるなど評判は上々で、最近漁業では景気の良い話がありません中、関係者は、「道の駅みつ」が西播地区の観光拠点として定着し、水産物の流通が活性化することを期待しています。



体験地曳き網漁

式典を盛り上げる漁船パレード



砂浜より見た「道の駅」みつ

(写真提供：たつの市、JF室津)

「道の駅みつ」

開館時間▶9:00~19:00

(道路利用者のトイレ利用は24時間可)

休館日▶毎週水曜日

T E L ▶079-322-8500

ホームページ▶<http://www.totonaya.com/>

第13回「山田記念賞」表彰式・祝賀会開催!

去る2月18日(木)に神戸ポートピアホテルにて(財)兵庫県水産振興基金の主催により第13回「山田記念賞」表彰式および祝賀会が開催されました。

「山田記念賞」は、永年にわたり大きな夢と希望を抱いて本県水産業の発展に尽くされた故山田岸松氏を偲び、そのご功績を記念するため平成3年に創設されたもので、水産業の経営、技術に優れ、多年にわたり本県水産業の振興に貢献し、その功績が著名な方々に贈られる賞であり、今年度はJF神戸市婦人部元部長山田千賀子様、JF津名副組合長理事肥田和重様、豊岡市水産加工業協同組合代表理事組合長佐藤茂雄氏の3名が受賞されました。

表彰式では、主催者を代表して井戸敏三理事長より「受

賞された皆様は、それぞれの地域、分野でさらにご活躍されることを期待します。」と挨拶し、系統団体を代表して山田隆義JF兵庫漁連会長が祝辞を述べられました。また、受賞者を代表して肥田和重氏から

「この賞を励みとして、今後とも本県水産業の発展のため努力します。」と謝辞を述べられ、閉式しました。

その後、事務局が大輪田塾を紹介し、5期生の方々は「子や孫が漁業を続けていけるよう、何事も学んで頑張ります。」と誓いました。

続いて祝賀会では、吉岡修一理事の挨拶に続き、伍々博一兵庫県農政環境部長の乾杯の御発声があり、歓談の後、松本 力理事による万歳三唱で祝賀会の幕を閉じました。



【山田記念賞】

(平成21年度兵庫県水産賞受賞者)

- ・神戸市漁業協同組合婦人部 元部長 山田 千賀子 氏
- ・津名漁業協同組合 副組合長理事 肥田 和重 氏
- ・豊岡市水産加工業協同組合 代表理事組合長 佐藤 茂雄 氏

兵庫信漁連からのお知らせ

キャッシュカードがさらに便利になります

ATMのご利用手数料を平成22年4月1日(木)より次のとおり無料または引下げいたします。

①JAバンクとのATM相互終日無料化

当会のキャッシュカード利用者がJAバンクのATMでご出金する際の利用手数料はすべての時間帯で無料となります。
(入金のお取扱は出来ません)

<JFマリンバンク利用者及びJAバンク利用者が相互のATMを利用する際のご利用手数料>

	現 行	平成22年4月1日より
平日 8:45~18:00	105円	無 料
土曜 9:00~14:00	210円	
上記以外の時間帯		

②JFマリンバンク内のATM入出金手数料の終日無料化

当会のキャッシュカード利用者が全国のJFマリンバンクのATMでご入金、ご出金する際のご利用手数料がすべての時間帯で無料となります。

③ゆうちょ銀行ATMの平日日中無料化

当会のキャッシュカード利用者がゆうちょ銀行ATMでご入金、ご出金する際のご利用手数料について「平日日中(8:45~18:00)」は無料、「その他の時間帯」は105円となります。

<JFマリンバンク利用者がゆうちょ銀行ATMを利用する際のご利用手数料>

	現 行		平成22年4月1日より	
	入金	出金	入金	出金
平日 8:45~18:00	105円	105円	無 料	
土曜 9:00~14:00	105円	105円	105円	
上記以外の時間帯	210円	210円		

JFマリンバンクのキャッシュカードをお持ちでないお客様につきましては、この機会にますます便利で安心な「JFマリンバンクICキャッシュカード」をお申込下さい。

詳しくはお近くの兵庫信漁連各店舗窓口へお気軽にご相談ください。



共済組合からのお知らせ

兵庫県漁業共済組合の新漁業経営安定対策推進室です。

このたび、新しい漁業経営安定対策事業(積立ぶらす)にかかる平成22年度の所得要件判断基準金額並びに補正額が決定しましたので、取り急ぎお知らせします。

◆所得要件

個人経営体の場合 下限:287万8千円 上限:565万7千円

法人経営体の場合 下限:418万5千円 上限:791万5千円

◆補正額(個人・法人とも同じ)

19年:57万2千円 20年:98万1千円 21年:42万2千円

◆その他

所得要件の特例措置は継続(但し、特例中の特例措置は廃止)その他の加入要件等は従来通りです。

以 上



兵庫県農政推進協議会、 民主党と「政策懇談会」を開催

民主党兵庫県総支部連合会政策会議は2月6日、神戸市のラッセホールで兵庫県農政推進協議会(会長:石田正)との政策懇談会を政権獲得後初めて開催しました。

兵庫県農政推進協議会からは各JA組合長など28人が、また民主党からは県選出国會議員、県議會議員、県内市議會議員ら34人が出席し、意見交換を行いました。

兵庫県農政推進協議会は新年度に導入される「戸別所得補償モデル対策」について、評価した上で、「JAの位置付けをどう考えているのか」、「地域の実態に応じた交付金単価を設定するべきではないか」と意見を述べました。

民主党は兵庫県連を代表して梶原康弘衆議院議員が、来年度に予定されている農水省の出先機関の再編問題などに触れ、「自治体とともにJAには大きな役割を果たしてもらわなければならない」と述べています。

このほか、食料自給率向上についての施策や国際交渉の在り方についても意見交換を行いました。また、民主党兵庫県連は今後も定期的な協議を行う意向を示しています。



民主党に質問する石田会長

<http://www.ja-hyogo.or.jp/>

尼崎医療生協・ボランティアグループ 「もちの木」が、 第1回賀川賞を受賞しました

昨年の12月、尼崎医療生活協同組合のボランティアグループ「もちの木」が、賀川豊彦献身100周年記念事業の第1回賀川賞(団体賞)を受賞しました。「もちの木」は、23年間にわたり、尼崎医療生協病院を中心にボランティア活動を行ってきたグループです。その活動内容は、色々な種類の道具などの修理、植木の剪定・水やり、おしぼり巻き・お茶の葉袋詰め、お誕生カード作り、お誕生会のおやつ準備、手芸・ミシン掛け、散髪などの本当にさまざまです。

1月12日(火)、こうしたボランティア活動に感謝し、今回の受賞をお祝いする祝賀会が、尼崎医療生協あおぞら会館内の「組合員ひろば」で開かれ、およそ40人がかけつけました。

祝賀会では、福島専務理事のあいさつ、中川副理事長の受賞の経過報告につづき、医療生協病院や老人保健施設「ひだまりの里」からも感謝の言葉が送られ、参加者全員で受賞を祝いました。



「もちの木」受賞祝賀会のようす



賀川賞賞状と左写真は「もちの木」初代会長の森さん(故人)

<http://www.coop-hyogo-union.or.jp/>

旬に想う

写真と文
遊方子

くさいがうまい

◆食べ物と匂いの関わりは、非常に大切なことだと思う。口に入れる物は、まず色を見て匂いを嗅いで、そして少し味わってみる、異変があれば直ちに吐き出す。発酵食品には、納豆やチーズなど栄養価の高い食べ物が多いが、匂いが問題である。国により香りや匂いに好き嫌いがあり、パン主食の人たちは麦の焦げる匂いに惹かれるし、日本人は米が炊ける時の温泉卵のような匂いが好きであるし、沢庵漬の匂いもいい。一種の硫黄系臭気で、外国では嫌う人も多いという。その土地の空気や湿度も大きく関係しているようである。

◆野鳥の肉は、これまで縁がなく食べた記憶も無いが、カラスは雑食性に富むためか非常に臭いそうだ。仏壇に供する線香に似た異様な臭いがするという。カモメやウ、あるいは鷹や鳶など猛禽類も臭くて不味いそうである。海鳥のウミツバメも肉は非常に臭いが、カナディアン・イヌイットたちは此の鳥70羽程をアザラシの腹へ詰め、地中に埋める。そして2年間置くと、乳酸菌などの発酵作用で強烈な「くさや」風の食べ物に変身する。この発酵食品には、微生物が蓄積した各種ビタミンが豊富に含まれており、北極圏という環境でのビタミン類補給に欠かせられぬ食べ物になるという。生活の知恵と言えよう。

◆伊豆七島の新島が主産地の「くさや」は、ムロアジやトビウオを使った干し物で、独特の臭気のため好き嫌いが分かれる。当初は、塩水に浸しただけの干し魚だったが、塩水を使い回す

ち魚の成分が蓄積し、微生物の作用で風味豊かな《くさや汁》になった。この臭さに秘伝を込め、400年の歴史を持つ《くさや汁》もあり、それを家宝とする業者もいる。この液体は抗菌作用を持ち、怪我をしったり体調不良時に塗布したり服用して効果観面だという。「くさや」は、焼くと強く匂うため、最近は焼きほぐして瓶詰にした商品が好評だとか・・・。

◆南国の果物ドリアンも、かなり強烈な臭いの果物である。マレー語「棘のある果実」の意で、樹高40メートル、成熟した果実は自然落下するらしい。大きな物は8kg、棘が密集した木質の球形だから直撃されたら重傷間違いなしだが、落下は夜か早朝だという。《果物の王》と言われつつ臭いのせいで、評価は大好きと大嫌いに二分される。果肉をラップに包み、タッパーに入れガムテープで封をし、さらに厚いポリ袋で包んでも微かに匂うという。シンガポールへの旅でドリアンを食べたが、それほど悪い印象はなく、かなり甘い味だったと記憶する。嗜好は個人で様々、気になる人はやめておいた方がいい。



梅三輪（兵庫県立やしらの森公園にて）

大輪田塾だより

「決算書と経営分析」と「海況データの利活用」

2月の大輪田塾は、23日(火)兵庫県水産会館で開催され、第4期生2名、第5期生5名と修了生1名が出席しました。

前半は、JF兵庫信漁連の監事である税理士の石井晋三氏が、決算書の作成法やこれに基づく経営分析の手法について、演習問題を使用して講義、後半は兵庫県立水産技術センターの宮原一隆主任研究員が水産技術センターや大学、海上保安庁などの海洋情報が入手出来るホームページの紹介とその利用・活用法について、実際にインターネットに接続してリアルタイム画像を見ながら講義されました。

塾生は、精算表作成の演習問題に四苦八苦、また潮流予測のクラゲや流出油対策への応用や、海水温度差による海面高度の変化などに関して質問を繰り返していました。



石井税理士の講義



宮原主任研究員の講義

表紙の言葉



「道の駅みつ」オープン

「道の駅」みつでは2月21日のオープンに先立つ20日、関係者約550人が集まり盛大に竣工式典を行い、セレモニーの他、体験地曳ぎ網漁や漁船パレードも行われました。